

イネいもち病に対するトルプロカルブを含む育苗箱施用剤の防除効果

トルプロカルブ剤の特徴

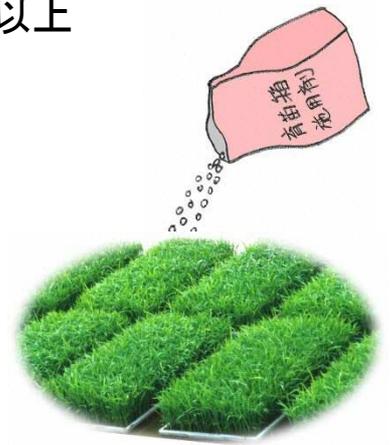
○葉いもちに対して高い防除効果

プロベナゾール24%剤(Dr.オリゼフェルテラ粒剤等)、
プロベナゾール20%剤(ファーストオリゼフェルテラ粒剤等)と同等
イソチアニル剤(ルーチンアドスピノ粒剤等)と同等以上
(詳しくは裏面へ)

○山間地でも高い葉いもち防除効果

○新規のメラニン生合成阻害剤(MBI-P剤)

※薬剤例:トリプルキック箱粒剤 等



イネいもち病



【葉いもちの病斑】

イネで最も恐ろしい病害！



【いもち病のずり込み症状】
(収量に大きく影響)

農薬の使用は用法・用量を守って、安全に！！

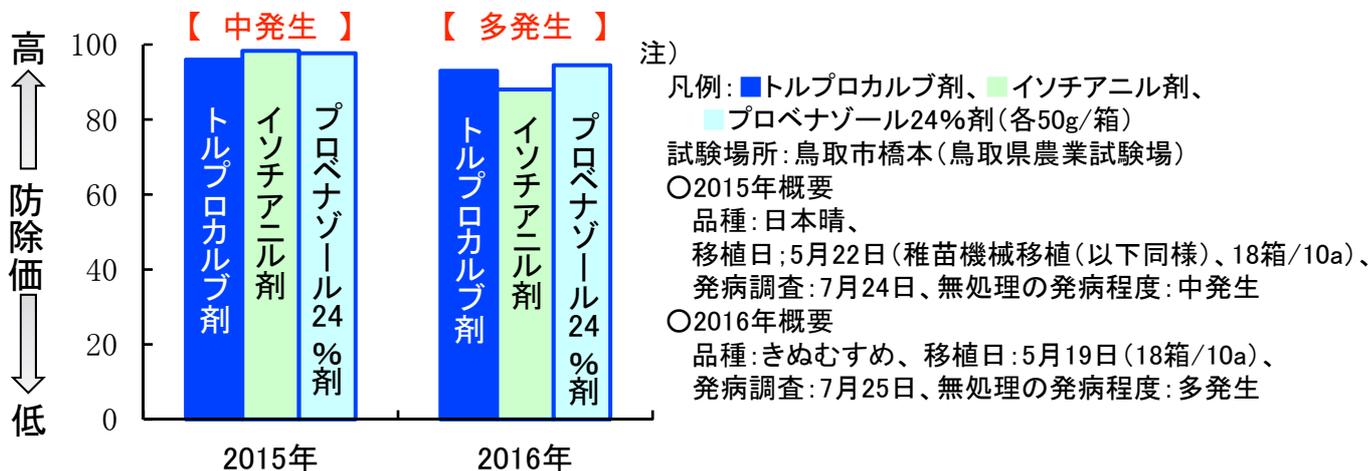


図1. トルプロカルブを含む育苗箱施用剤のイネいもち病(葉いもち)に対する防除効果(平坦地)

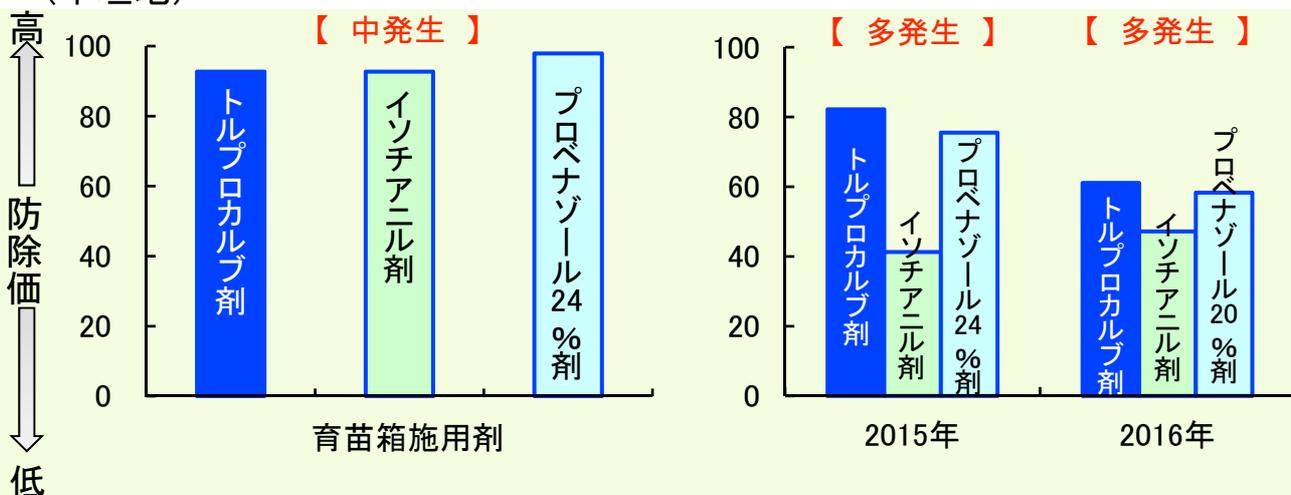


図2. トルプロカルブを含む育苗箱施用剤のイネいもち病(葉いもち)に対する防除効果(山間地)

左図注)

試験場所:智頭町真鹿野(標高約350m)
薬剤処理:いずれの薬剤も50g/箱
品種:コシヒカリ、移植日:2016年5月9日(18箱/10a)、
発病調査:7月25日、無処理の発病程度:中発生

右図注)

凡例: ■トルプロカルブ剤、■イソチアニル剤、■プロベナゾール剤(2015年:24%剤、2016年:20%剤)(各50g/箱処理)
試験場所:三朝町福山(標高約550m)
○2015年概要
品種:コシヒカリ、移植日:5月28日(16箱/10a)、
発病調査:7月22日、無処理の発病程度:多発生
○2016年概要
品種:コシヒカリ、移植日:5月27日(16箱/10a)、
発病調査:8月2日、無処理の発病程度:多発生

注意事項

- ・本情報の対象は、鳥取県内の水田です
- ・トルプロカルブを含む育苗箱施用剤には9%製剤と4%製剤があるが、本情報は9%製剤の試験結果であり、4%製剤については未検討です
- ・薬剤によって対象病害虫が異なるため、栽培地域に適した薬剤を選択するとともに、必要に応じて追加防除を行いましょう
- ・穂いもちについては、既存の育苗箱施用剤と同様に本田散布剤等による予防防除を行う必要があります
- ・薬剤は規定量を均一に散布しまししょう(薬剤の防除効果に影響します)